

倫理 第13回「孔子と儒家の思想」

○今回のポイント

孔子にとっての理想像は仁と礼を兼ね備えた人間

○なぜ中国古典思想を学ぶのか

自己とは何か→他者関係における存在・社会の一員→人と人とのつながりの中で人生を考える
↓
人間関係に配慮する知恵 = 中国の先哲の思索

1. 中国思想の源流

(1) 周王朝と封建制

- ・ 紀元前 12 世紀末 周王朝 **【① 封建制】**(土地分与による支配システム)；血縁関係
- ・ 血縁関係の重視と祖先崇拜 → 周の支配；**【② 礼】** (天の祭りや血縁関係による身分秩序)

(2) 諸子百家の時代

- ・ 紀元前 8 世紀 周王朝衰え春秋戦国時代 → 諸侯の富国強兵策 → 人材を求める
- ・ **【③ 諸子百家】**…春秋・戦国時代にかけて登場した時代に対する諸政策を説いた思想家たち。
→**【④ 百家争鳴】**：さまざまな思想家が学説を競い合う
・ 孔子、孟子を代表とする**【⑤ 儒家】**、老子・莊子を代表とする**【⑥ 道家】**

2. 仁の思想

(1) 孔子の教え

- ・ 意義
…血縁的秩序 → 他者への愛・円滑な共同社会 → 普遍的な人間関係の理法
- ・ 探究
…現実社会のなかでの人間としての正しいあり方や幸福

(2) 仁とは何か

- ・ **【⑦ 仁】**…人間としてもっとも望ましいあり方 = 他者を愛すること
→**【⑧ 孝悌】**：親子や兄弟のあいだの自然な情愛 (親子の愛と年長者への恭順)
→信愛の情をさまざまな人間関係に広めていくことが仁の実践

(3) 仁のあり方

- ・ **【⑨ 克己】**…自分の欲望やわがままをおさえること
- ・ **【⑩ 恕】** …自分の望まないことを他人にもしないようにする思いやり
- ・ **【⑪ 忠】**と**【⑫ 信】**…自分を偽らず、他人をあざむかないこと

(4)【13 礼】…仁が行為として外面にあらわれたもの

- ・【14 克己復礼】…「己に克ちて礼に復るを仁となす」→礼の意義を強調
- ・孔子以前の礼＝古代中国における身分秩序にのっとった行為の規範
 - 孔子は人間のしたがうべき普遍的な決まりであると考えている。
 - 他人に接するときには敬意を払うべきで、それを行動で示すべきであること。
 - 仁と礼を兼ね備えるのが人間の理想。

3.君子の徳

(1)君子と小人

- ・【15 君子】…仁と礼を兼ね備え、道を求めて不断に修養するもの
 - 常に正しく生き、義を志す。他人に協力できる
 - 人間としての調和のとれた教養 偏りのない徳＝[A. 中庸]

アリストテレスの「中庸」、仏教の「中道」と思想家たちは似ていること言っている。

アリストテレスの中庸	仏教の中道	儒教の中庸
欲求や感情において過度や不足の両極端を避けて、適切な中間を選ぶこと。例えば、勇気は無謀と臆病の中間にある適切さが良い。	快樂と苦行の両極端を避け、どちらにも偏らない中正な道。	過不足の無い適度な態度を常に保つこと。ものの見方や行動が一方に偏らない、ほどよい中間を得ていること。

- ・【16 小人】…君子を志さない者、常に利を求め、うわべだけの協力

(2)儒家における政治の在り方

- ・【17 修己治人】…道徳を身に修めた君子が為政者となって国を治める
- ・【18 徳地主義】…君子の感化によって天下に調和がもたらされる

(3)その他の諸子百家 墨家

- ・墨家…【19 墨子】の兼愛（自他を区別しない博愛主義の愛）
 - 【20 兼愛交利説】…儒教の教えは肉親の愛情など上下関係的なものであり、差別的なので別愛と呼んで批判。兼愛は無差別平等の愛であり、他者を愛することは相手の利益につながり、そうすれば他者も我に愛をもたらし、相互の利益が実現する。
 - 非戦論【21 非攻】説…人を殺せば不義で死罪なのに戦争で人を殺せば英雄として正義とするのは矛盾であるとして、侵略行為を批判した。
 - 他、儉約（節用説）などを説く。